

- 問1 5世紀頃、日本の王たちが中国の皇帝に使節を送った背景や目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2017年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 仏教を日本に広めるために、中国から高僧を招くとともに、寺院建築や経典などの進んだ文化を公的に導入するため。 | 2. 後漢の皇帝から「漢委奴国王」と刻まれた金印を授かり、九州北部における小国の連合を束ねる権威を確立するため。 | 3. 中国の皇帝から地位の承認を得ることで、朝鮮半島での軍事的外交関係を有利に進めたり、高度な技術を導入して統治を強固にするため。 | 4. 遣唐使を廃止することで大陸との交流を制限し、日本独自の国風文化を育むとともに、律令国家の形成を早めるため。 |
|--|--|---|--|
- 問2 4世紀から7世紀にかけて、近畿地方の有力な一族を中心として組織され、日本の大部分を統治した政治組織の仕組みについて述べたものとして最も適切なものはどれですか。 (2022年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 貴族が摂政や関白の職を独占し、天皇に代わって政治の実権を握る体制がとられた。 | 2. 大王（おおきみ）と呼ばれる首長を中心として、各地の有力な豪族が連合して構成された。 | 3. 漢の皇帝から授けられた金印を持つ王が、中国の王朝に対して朝貢を行うことで統治した。 | 4. 地方の武士が幕府を開き、土地の支配権を保証することで全国の武士を統制した。 |
|---|--|--|--|
- 問3 3世紀後半から6世紀にかけて、北は東北地方から南は九州地方まで、日本列島の広範囲にわたって鍵穴のような独特な形をした巨大な墓が築造されました。このような墓が各地に共通して造られた背景として、当時の政治状況を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2026年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 大和地方の人口が急激に増加したため、有力な豪族が新天地を求めて東北や九州へ集団移住した際の住居の跡地である。 | 2. 仏教の伝来とともに、日本全国の豪族が共通の宗教儀礼を行うための寺院の土台として、同じ形状で設計された。 | 3. ヤマト王権に従った各地の豪族が、王権との結びつきを周囲に示すとともに、自らの権力を誇示するために築造を認められた。 | 4. 大陸から渡来した人々が、最新の土木技術を日本各地の民衆に広めるための記念碑として、公共事業の一環で築造した。 |
|---|--|--|---|
- 問4 5世紀の日本において、倭の五王と呼ばれる王たちが中国の南朝へ繰り返し使節を送った目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2017年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 平城京を造営するためのモデルとして、中国の都の仕組みを詳しく調査するため | 2. 沿岸部で活動し周辺諸国を苦しめていた倭寇を取り締まるよう、中国から要請を受けたため | 3. 中国皇帝から王としての国際的な地位を認められ、朝鮮半島南部での立場を有利にするため | 4. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に勝利するための軍事同盟を、中国の王朝と結ぶため |
|---|--|--|--|
- 問5 5世紀の日本において、埼玉県稲荷山古墳や熊本県江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に銘文として刻まれていた大王の名として正しいものを、次の選択肢の中から1つ選びなさい。 (2025年 宮崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|---------|--------|----------|
| 1. ワカタケル大王 | 2. 聖徳太子 | 3. 卑弥呼 | 4. 中大兄皇子 |
|------------|---------|--------|----------|
- 問6 倭の五王の一人である「武」は、中国の南朝の皇帝に上表文（手紙）を送り、自らの祖先がいかにして国土を広げたかを伝えました。この「武」は、日本の歴史上のどの人物であると比定（推定）されていますか。 (2024年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------|------------------|--------|--------------|
| 1. 中大兄皇子（天智天皇） | 2. ワカタケル大王（雄略天皇） | 3. 卑弥呼 | 4. 聖徳太子（厩戸王） |
|----------------|------------------|--------|--------------|
- 問7 古代の日本において、ヤマト政権が朝鮮半島諸国との外交や軍事活動を通じて、他勢力に対し優位に立つために最も獲得を重視した資源はどれか。 (2020年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------|---------------------|----------------|--------------------|
| 1. 武器や農具の材料となる鉄 | 2. 外交の儀礼に用いられる仏教の経典 | 3. 貨幣の原料となる金や銀 | 4. 権威を象徴するための金印や銅鏡 |
|-----------------|---------------------|----------------|--------------------|
- 問8 3世紀、邪馬台国の女王である卑弥呼は、中国の魏へ使いを送り「親魏倭王」の称号を授かりました。このように、当時の倭の勢力が中国の王朝へ朝貢を行った政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2025年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------------|-------------------------------|---------------------------------------|---|
| 1. 幕府が定めた禁教政策を東アジア全域に広めるための協力を仰ぐため | 2. 遣唐使を停止したことによる文化的な遅れを取り戻すため | 3. キリスト教の布教を阻止するために、中国からの軍事支援を取り付けるため | 4. 中国皇帝の権威を背景にすることで、国内の諸勢力に対する支配力を高めるため |
|------------------------------------|-------------------------------|---------------------------------------|---|
- 問9 5世紀頃、近畿地方を中心とする大和政権（ヤマト王権）の支配が各地に広がっていったことを示す資料として、大阪府にある大山古墳（仁徳天皇陵）のような巨大な前方後円墳が築かれました。こうした時期に、地方の有力者の墓から出土したもので、大和政権の王の名称が刻まれているとされる遺物はどれですか。 (2017年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------|-------------------|----------------------|-------------------|
| 1. 装飾が施された石包丁 | 2. 近畿地方で多く見つかった銅鐸 | 3. 漢の皇帝から授けられたとされる金印 | 4. 王の名称が刻まれた鉄剣や鉄刀 |
|---------------|-------------------|----------------------|-------------------|
- 問10 5世紀ごろ、大和政権（ヤマト王権）の支配が関東地方や九州地方まで及んでいたことを示す歴史資料があります。埼玉県の稲荷山古墳や熊本県の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に、その名が刻まれていた人物として正しいものを選びなさい。 (2019年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|--------|------------|----------|
| 1. 聖徳太子 | 2. 卑弥呼 | 3. ワカタケル大王 | 4. 中大兄皇子 |
|---------|--------|------------|----------|
- 問11 日本最大級の規模を誇る前方後円墳である大仙古墳（大山古墳）が位置する場所として正しいものはどれですか。日本全国をいくつかの地域に分けた際、現在の大阪府堺市が含まれる地方の名称を選択しなさい。 (2024年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 近畿地方 | 2. 東北地方 | 3. 九州地方 | 4. 関東地方 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問12 埼玉県の稲荷山古墳から「ワカタケル大王」の名が刻まれた鉄剣が出土し、また熊本県の江田船山古墳からも同じ大王の名が刻まれた大刀が出土しました。これらの史料から推測できる、5世紀後半の日本列島の状況として最も適切な説明を選びなさい。 (2024年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------------------|--|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 仏教の教えが全国に広まり、各地の豪族が鉄剣を寺院に奉納していた。 | 2. 各地域の豪族が独自に強力な軍隊を持ち、ヤマト政権と激しく対立していた。 | 3. ヤマト政権の政治的な支配力が、関東地方から九州地方まで及んでいた。 | 4. 稲作の技術が伝わったことで、日本列島各地で小国家の統一が始まった。 |
|-------------------------------------|--|--------------------------------------|--------------------------------------|
- 問13 大阪府堺市に位置し、三重の堀に囲まれた巨大な鍵穴のような形状を持つ、日本最大級の面積を誇る古墳の名称として正しいものを選びなさい。 (2018年 長崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------|----------|-----------|----------|
| 1. 大仙（大仙陵）古墳 | 2. 高松塚古墳 | 3. 江田船山古墳 | 4. 稲荷山古墳 |
|--------------|----------|-----------|----------|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 中国の皇帝から地位の承認を得ることで、朝鮮半島での軍事的な外交関係を有利に進めたり、高度な技術を導入して統治を強固にするため。	5世紀の「倭の五王」は、中国の南朝へ繰り返し使節を派遣しました。当時の倭王は、朝鮮半島における軍事的な指揮権を含む称号を中国の皇帝から授かることで、国際的な地位を確立し、周辺諸国との外交を有利に進める狙いがありました。また、これに伴い鉄製武器の製造技術や須恵器などの新しい技術を大陸から導入し、国内の支配力を高めていきました。
問2	答え 2 大王（おおきみ）と呼ばれる首長を中心として、各地の有力な豪族が連合して構成された。	4世紀頃に近畿地方を拠点として成立した大和政権は、豪族と呼ばれる有力な一族が連合して形成された組織です。その中心には「大王（おおきみ）」と呼ばれる世襲の王が君臨し、有力な豪族たちは職務を分担して政権を支えました。この体制は、後の律令国家へと発展していく基礎となりました。
問3	答え 3 ヤマト政権に従った各地の豪族が、王権との結びつきを周囲に示すとともに、自らの権力を誇示するために築造を認められた。	前方後円墳という特定の形状が日本各地に広がった事実は、当時のヤマト王権を中心とした政治的な連合が広範囲に及んでいたことを示しています。各地の有力な豪族は、ヤマト王権の支配体制に組み込まれることで、その象徴である前方後円墳を築く許可を得て、自身の支配権を正当化しました。渡来人の技術は築造に関わっていますが、目的は公共事業ではありません。また、古墳は住居ではなく墓であり、仏教伝来以前の文化です。
問4	答え 3 中国皇帝から王としての国際的な地位を認められ、朝鮮半島南部での立場を有利にするため	5世紀の古墳時代、倭の五王は中国の南朝に朝貢しました。当時の倭の王は、大陸の強大な王朝から「倭王」としての称号（冊封）を得ることで、自身の権威を国内外に示すとともに、鉄資源の供給地として重要だった朝鮮半島南部における外交的・軍事的な優位性を確保しようと考えました。
問5	答え 1 ワカタケル大王	埼玉県の稲荷山古墳や熊本県の江田船山古墳からは、「ワカタケル大王（獲加多支鹵大王）」の名が刻まれた鉄剣や鉄刀が出土しました。これにより、5世紀後半にはヤマト王権の支配が関東から九州におよんでいたことがわかります。
問6	答え 2 ワカタケル大王（雄略天皇）	倭の五王の最後の人である「武」は、埼玉県で見つかった稲荷山古墳の鉄剣銘などに記された「獲加多支鹵大王（ワカタケル大王）」、すなわち雄略天皇であると考えられています。この時期、ヤマト政権の支配範囲が関東から九州にまで及んでいたことが、金石文と中国の歴史書の両方の記述から裏付けられています。
問7	答え 1 武器や農具の材料となる鉄	当時の日本列島では鉄の原料を十分に自給できず、朝鮮半島からの供給に依存していました。鉄は強力な武器を作るだけでなく、開墾や土木作業に不可欠な農具の材料でもあったため、鉄を安定確保することは、軍事力と農業生産力の両面において政権の基盤を固めるために極めて重要でした。
問8	答え 4 中国皇帝の権威を背景にすることで、国内の諸勢力に対する支配力を高めるため	3世紀の日本はまだ統一国家ではなく、多くの小国が対立する状況（倭国大乱など）にありました。卑弥呼は中国の強大な王朝である「魏」から称号や金印、銅鏡などを授かることで、その権威を国内に示し、自らの統治能力や地位をより強固なものにしようしました。これは外交を利用した国内統治の強化という側面を持っています。
問9	答え 4 王の名称が刻まれた鉄剣や鉄刀	5世紀の大和政権の王（大王）は、支配下に入った地方の有力者に対して、その地位を認める証として名前を刻んだ刀剣などを与えました。埼玉県（稲荷山古墳）や熊本県（江田船山古墳）といった遠く離れた地域の有力者の墓から、同じ王の名が刻まれた遺物が見つかることは、政権の勢力が関東から九州まで及んでいたことを裏付ける重要な証拠となっています。
問10	答え 3 ワカタケル大王	埼玉県の稲荷山古墳や熊本県の江田船山古墳から出土した文字が刻まれた鉄剣・鉄刀には、大和政権の「ワカタケル大王」という名が記されていました。同一人物の名が刻まれた遺物が関東と九州の双方で見つかったことは、5世紀後半には大和政権の支配力が日本列島の広範囲に及んでいたことを証明する重要な根拠となっています。
問11	答え 1 近畿地方	5世紀頃、現在の大阪府や奈良県などを含む近畿地方を中心に、巨大な前方後円墳が数多く造られました。大仙古墳は、当時の大和政権（ヤマト王権）の首長である大王の権力を象徴するものであり、現在の大阪府堺市に位置しています。
問12	答え 3 ヤマト政権の政治的な支配力が、関東地方から九州地方まで及んでいた。	遠く離れた関東（埼玉県）と九州（熊本県）の両地域から、同一の大王の名を刻んだ刀剣が見つかったことは、当時のヤマト政権が広範囲の豪族を服属させ、統治下に置いていたことを示す重要な歴史的証拠となっています。単なる交易の証拠ではなく、地方の豪族が大王に仕えていたという政治的な背景を裏付けています。
問13	答え 1 大仙（大仙陵）古墳	堺市にあるこの古墳は、仁徳天皇の墓とも伝えられている日本最大の方後円墳です。三重の堀に囲まれたその巨大な規模は、当時の大王（おおきみ）が持っていた強大な権力を物語っています。